

8. 図画工作科論文

夢や目標をもち、共にみがき高め合う子どもの育成Ⅱ

表現へのこだわりをはぐくむ子どもの育成

～見るポイントとイメージを関係付け、互いに高め合う図画工作科カリキュラムの創造～



I	研究の目的	97
1	研究の背景	97
2	研究の方向	97
II	研究内容	98
1	表現へのこだわりをはぐくむ子どもとは	98
2	見るポイントとイメージを関係付け、互いに高め合う図画工作科カリキュラム創造の基本的な考え方	99
(1)	枠組みを見直す視点	99
(2)	内容を見直す視点	99
(3)	方法を見直す視点	100
3	見るポイントとイメージを関係付け、互いに高め合う図画工作科カリキュラムの全体構想	100
4	見るポイントとイメージを関係付け、互いに高め合う図画工作科カリキュラムの具体化	103
III	研究の実際	105
1	実践の立場	105
2	実践結果と考察 第3学年「見えた！聞こえた！形と色のこ～んな感じ」	106
IV	研究の成果と課題	108
1	研究の成果	108
2	研究の課題	108

【学校教育目標】

夢や目標をもち、共にみがき高め合う子どもの育成 【校訓】 まことの子・ちからの子・のぞみの子

【目指す子ども像】

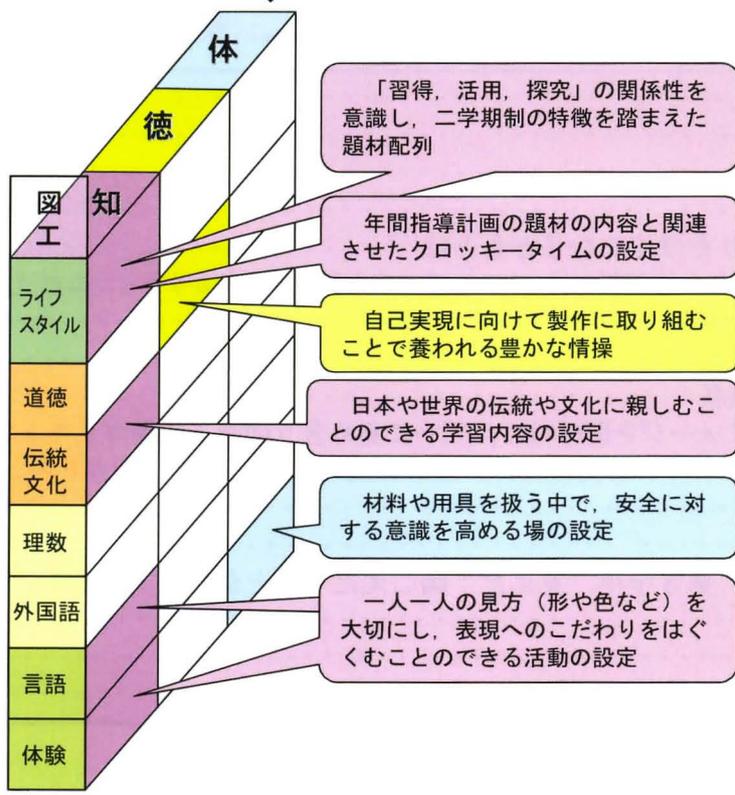
(知) 互いの考えに学び合う子ども (徳) 心と心がひびき合う子ども (体) 心と体をきたえ合う子ども

【本校の主な教育課題】

確かな学力の面から ○論理的な思考 ○伝え合う方法の習得 ○学ぶ喜びや楽しさの実感	豊かな心の面から ○人間関係(他者意識) ○自己の発揮の仕方 ○多様な体験	健やかな体の面から ○基礎体力 ○生活習慣 ○健康・安全
---	---	---------------------------------

【確かな学力、豊かな心、健やかな体を調和的にはぐくむカリキュラム】

知識・技能 思考・判断・問題解決 学びに向かう力、人間性等		健やかな体をはぐくむ観点(体)													
		豊かな心をはぐくむ観点(徳)													
		確かな学力をはぐくむ観点(知)	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	道徳	外国活動	総合	特活
カリキュラム創造の視点	枠組	学校のライフスタイルの見直し													
	内容	道徳教育の充実													
		伝統や文化に関する教育の充実													
		理数教育の充実													
		外国語教育の充実													
	方法	言語活動の充実													
体験活動の充実															



I 研究の目的

1 研究の背景

平成20年8月に改訂された学習指導要領では、「生きる力」の育成を目指し、感性を働かせながらつくる喜びを味わい、生涯にわたって美術に親しみ、生活や社会に生かしたり、豊かにしたりする態度を身に付けることが重視された。このような理念を基に、私たちは、子どもが表現や鑑賞の歩みの中で試行錯誤し、自分らしさを求めていくことが図画工作科のよさであると考えている。また、このよさが生きる力を育成するために欠かすことのできない学習であるにとらえている。

昨年度設定した学校教育目標に向けて図画工作科では、「自分の思いや考えを大切にし、造形活動を通して学び合いながら、自己実現を目指す」役割を担っていると考えている。

そこで、本校では昨年度「表現へのこだわりをはぐくむ言語活動」に重点を置いて研究をした。「生きる力の育成」と「自分の思いや考えを大切に」するためには、言語活動が第一に必要であると考えたからである。感性を働かせることと共通事項の関係性を明らかにし、「感じる→表す・考える→伝える」のプロセスを行う対自分と対他者との言語活動が、表現へのこだわりをはぐくむために重要であることを実践を通して検証した。

その結果、次のような成果と課題を得ることができた。(○は成果、●は課題)

- 発達の段階に応じて言語活動を設定することで、系統的なつながりを意識して指導することができ、表現へのこだわりをはぐくむ子どもが多く見られるようになった。
- 表現へのこだわりをはぐくむことができない子どもがいたので、言語活動を充実させるとともに、様々な領域や言語活動以外の視点からも検証していく必要がある。

2 研究の方向

研究の背景を踏まえ、学校教育目標に向け自己実現を目指す子どもを育てるために、これまで以上に表現へのこだわりをはぐくむことが大切だと考えている。表現へのこだわりは、他者との学び合いを通して、自分自身の考えと照らし合わせながら生まれるものであるととらえている。

昨年度の研究から表現へのこだわりがはぐくまれていない子どもの様子を見ると、見るポイントとイメージとが十分関係付けられていない状況が明らかになった。

例えば、子どもが、楽しく遊んでいる様子を絵に表し、自分と友達を重ねてかくことで「奥行きが感じられるようになった」と子どもが感じたとする。作品のできばえがよかったとしても、このような子どもは、本当に自分の表したい様子を表せたと言えるだろうか。「どんな気持ちで遊んでいるのか」「どんなことを話し合っているのか」「自分と友達を重ねた時と重ねない時の感じ方はどう違うのか」など考えながら、自分のイメージをもつことで、二人の重ね方や互いの向き、位置などを決めることができるのではないか。作品のできばえよりも、自分のイメージと照らし合わせた表現が大切であり、そのことが表現へのこだわりをはぐくむことにつながると考えた。

そこで、表現へのこだわりをはぐくむ子どもを育成するために、基本的な考え方をもってカリキュラムを創造し、内容や方法を検討していく必要があると考えた。

以上のことを踏まえ、本年度の研究主題及び副題を次のように設定した。

表現へのこだわりをはぐくむ子どもの育成

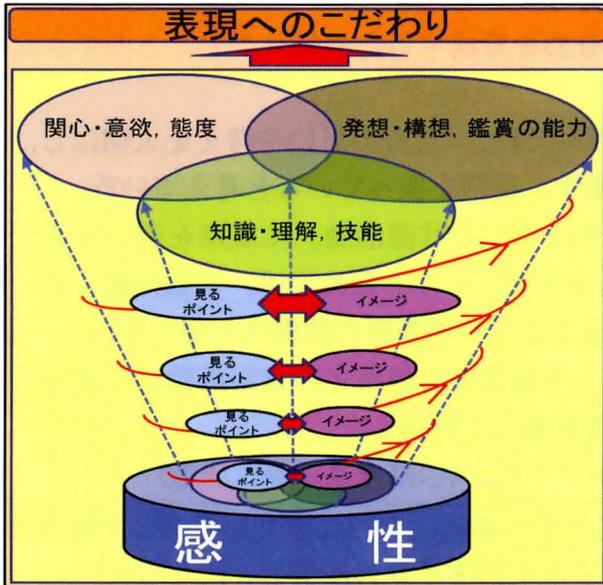
～見るポイントとイメージを関係付け、互いに高め合う図画工作科カリキュラムの創造～

II 研究内容

1 表現へのこだわりをはぐくむ子どもとは

表現へのこだわりをはぐくむ子どもを次のようにとらえた。

感性を働かせながら，見るポイントとイメージを関係付け，互いに高め合い，それを自覚し持ち続け表現し続ける子ども（図1）

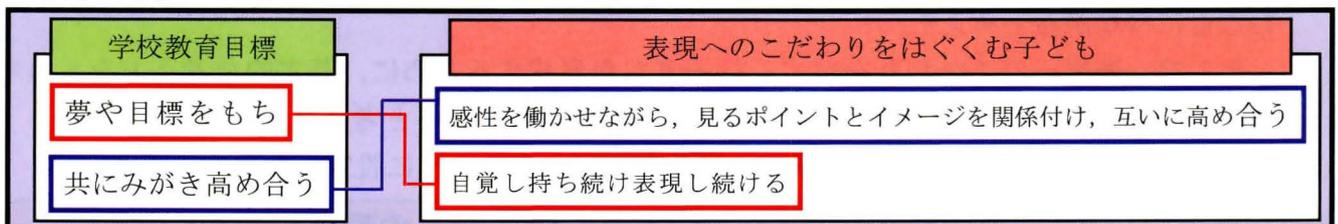


【図1 目指す子ども像】

感性は，子どもが感覚を通して材料や行為などからよさや美しさを感じとる働きがあり，表現や鑑賞をしていくための基盤となるものである。「見るポイントとイメージを関係付ける」とは，形や色などを基に自分のイメージをもつことである。同じ形や色であっても，子ども一人一人がもつイメージは様々である。無造作にちぎった紙の形から，キリンの顔と首をイメージする子どももいれば，長靴をイメージする子どももいる。大事なことは，友達と自分のイメージと比べるなどしながら，自分なりのイメージをもつことである。「互いに高め合う」とは，関係付けられた見るポイントとイメージが，友達との学び合いや体験などの

活動を通して，発展していくことである。「自覚し持ち続け表現し続ける」とは，互いに高まり合った見るポイントとイメージを生かして，試行錯誤しながら表現することである。また，見るポイントとイメージを関係付け，互いに高まり合う際，子どもはそれまでの知識や技能を生かし，思考を働かせながら表現の意欲を高めていることになる。

つまり，表現へのこだわりをはぐくむ子どもは，見るポイントとイメージを関係付け，互いに高め合いながら表現する喜びを味わい，三つの資質・能力（「関心・意欲，態度」「発想・構想，鑑賞の能力」「知識・理解，技能」）をバランスよく身に付けている子どもである。このような子どもを育成することは，図2のように学校教育目標（夢や目標をもち，共にみがき高め合う子どもの育成）の具現化につながると考える。表現へのこだわりの「自覚し持ち続け表現し続ける」は，学校教育目標の「夢や目標をもち」と関連がある。なぜなら，自己実現に向け表現し続けることは，子どもが自分の表現をしていくための原動力となり，なりたい自分そのものであるからである。また，同じように「感性を働かせながら，見るポイントとイメージを関係付け，互いに高め合う」は，「共にみがき高め合う」と関連がある。なぜなら，子どもは五感などを通して，形や色などをとらえ，学び合いの中で自分なりのイメージをもつようになるからである。そして，このような子どもが，豊かな情操を養い，生きる力を身に付けていくと考える。



【図2 目指す子ども像と学校教育目標の関連】

2 見るポイントとイメージを関係付け、互いに高め合う図画工作科カリキュラムの創造の基本的な考え方

「見るポイントとイメージを関係付け、互いに高め合う」とは、見るポイントをたくさん見つけたり、意図的に生かしたりしながら、具体的に思い描く像や自分の行為などイメージをもつことである。反対にイメージを基に、見るポイントをたくさん見つけたり、意図的に生かしたりすることもある。なぜなら、この二つは一体的であったり、相互に行き来したりすることで互いに高め合う関係にあるからである。どちらか一方が単独で存在するものではなく、常に相互に関連し合うことでそれぞれが高まっていくと考える。

例えば、2年生は、新聞紙を細長く切ったものを並べつなげる活動の中で、細長い形から道路のイメージをもつ。さらにどんどんつなげていくと、枝分かれした道路の形から道路の周りに広がる町をイメージする。この活動では、つなげる行為を通して細長い形がもつ面白さをとらえ、道路、町とイメージが膨らみ、それと同時に道路の形も長い、短い、曲がったなど、造形的により高次なものへと発展していく様子が見られる。

もう一つ例を挙げると、4年生は、のこぎりで切ったときの音や感触を感じながら、切った形を基に、表したい作品の具体的なイメージをもつ。この活動では、子どもが様々な感覚を通して材料や用具とふれあい、自分なりのイメージをもつ様子が見られる。

上記の例のような状態が、見るポイントとイメージを関係付け、互いに高まった状態である。そこで、三つの資質・能力がバランスよく身に付き、表現へのこだわりをはぐくめるように、見るポイントとイメージを関係付け、互いに高め合うカリキュラムを構想し実践する。昨年度の課題を基に、目指す子ども像を具現化するために、次のようなカリキュラム創造の視点を設定した。

(1) 枠組みを見直す視点

○ 「習得、活用、探究」の関係性を考慮した題材配列

「習得、活用、探究」は、知識・技能を習得したり、思考力・判断力・表現力を育成したりするために設定する。その際、発達の段階や二学期制の特徴である長期休業などを生かした題材配列を考える。

(2) 内容を見直す視点

○ 「見るポイントとイメージを関係付け、互いに高め合う」学習内容の設定

本校で設定している「見るポイント」と「イメージ」は、改訂で新設された「共通事項」と同じ内容であり、表現と鑑賞の活動の中で全ての資質・能力を働かせる具体的な手がかりとなるものである。カリキュラムを創造していく上でベースになるものである。

○ 発達の段階に応じた「独立鑑賞」の設定

「独立鑑賞」は、一人一人の見方、感じ方を深めるために設定する。培いたい資質・能力を明らかにして、各学年にこの活動を設定することで、鑑賞と表現の充実を図ることができると考える。よって、独立鑑賞の題材を軸に他の表現の題材の配列を考える。

○ 興味をもち、造形的な価値のある「対象物」の設定

「対象物」は、子どもが意欲を喚起するものであり、題材の価値が盛り込まれているものである。培いたい資質・能力を明確にし、対象物を見直す。

○ 発達の段階に応じた「材料、用具、場所」

「材料、用具、場所」は、図画工作科において、直接働きかける対象として大切な視点である。発達の段階を踏まえ、適切に設定していく。

○ 「クロッキータイム」による授業や写生会の充実

授業や写生会を充実させるために、内容と関連付けて、朝の活動にクロッキータイムを設定する。

○ 表現へのこだわりをはぐくむための「鑑賞の場（eスペース）」の設定

次の学習や生活の場に生かせるようにするために、学習の中でつくった作品や作家の作品を展示する場を設ける。

(3) 方法を見直す視点

○ 表現へのこだわりをはぐくむための「言語活動」の設定

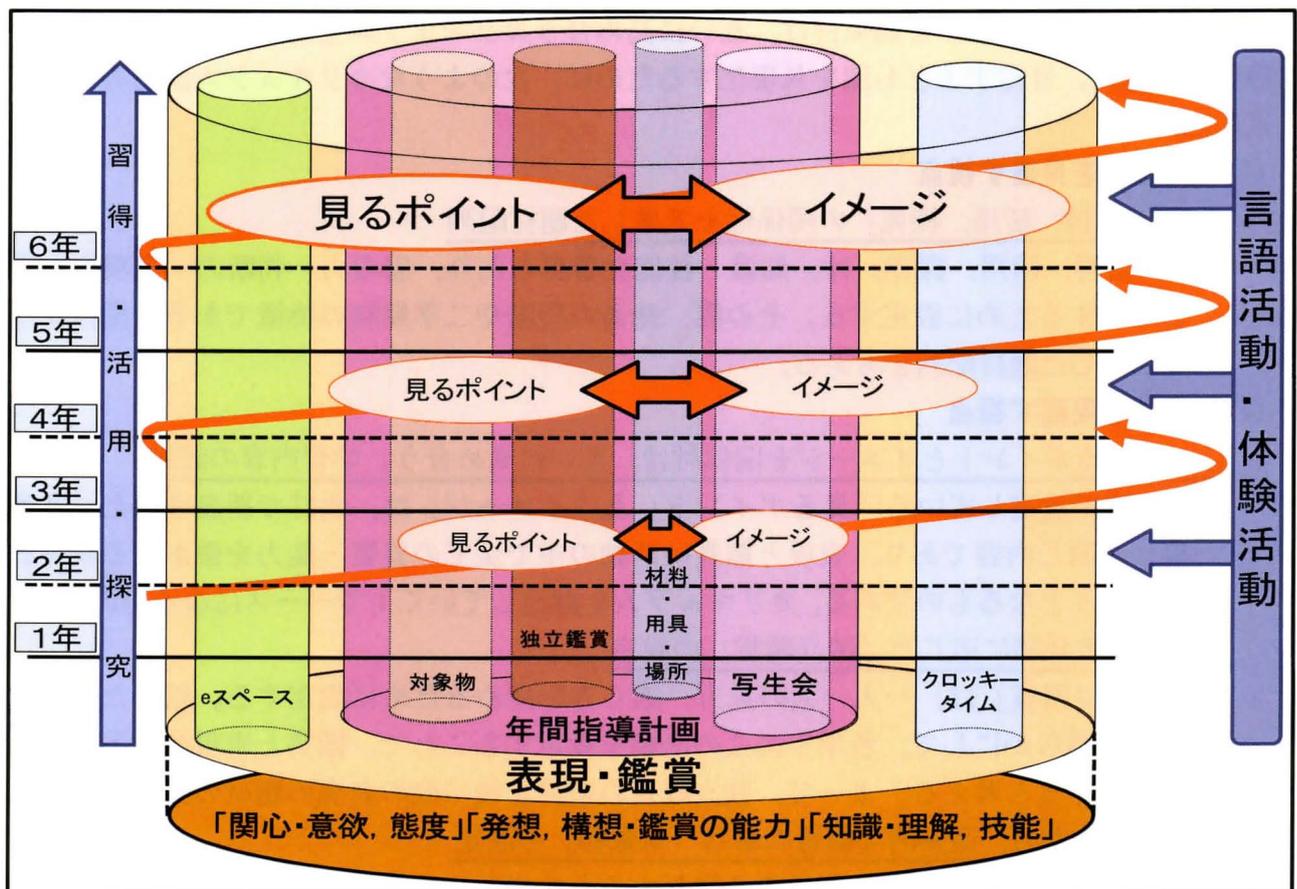
「言語活動」は、表現と鑑賞の領域において、内容を充実させるために設定する。特に見るポイントとイメージを関係付け、互いに高め合う際に大切な活動であると考え。

○ 表現へのこだわりをはぐくむための「体験活動」の設定

「体験活動」も言語活動と同様に、見るポイントとイメージを関係付け、互いに高め合う際に大切な活動であると考え。見る、触る、嗅ぐ、聞くなどの人間がもつ感覚を使って体験することで、充実した製作になったり、作品や材料などのよさ気付いたりすることができる。と考える。

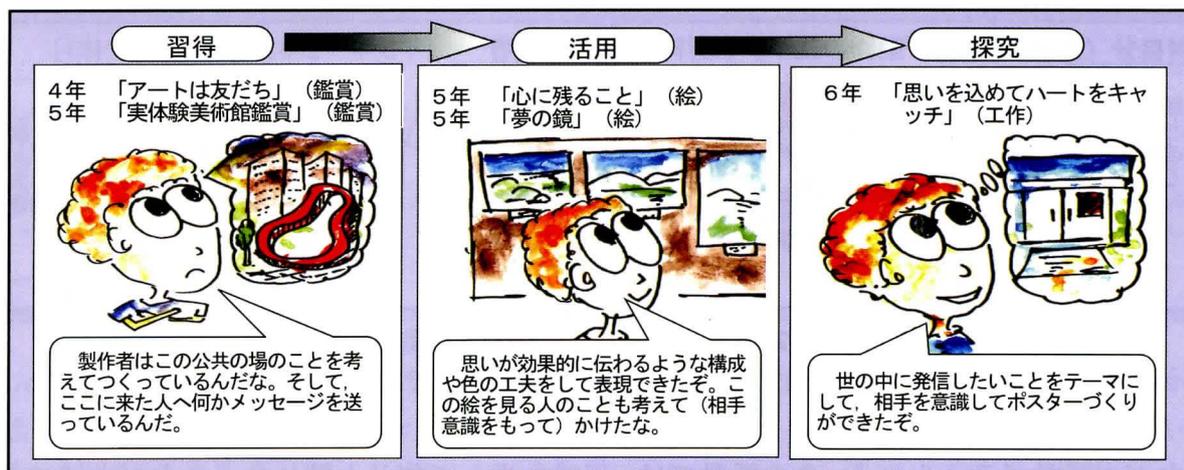
3 見るポイントとイメージを関係付け、互いに高め合う図画工作科カリキュラムの全体構想

カリキュラム創造の視点を基に、カリキュラムの全体構想を図3のように構想した。



【図3 「見るポイントとイメージを関係付け、互いに高め合う図画工作科のカリキュラム」の全体構想】

「習得、活用、探究」は、例えば、空き箱を並べたり、積んだりすると形がどんどん変わる経験（2年生）を基に、木片も並べたり、積んだりすることで同じように形が変わる学習（4年生）へと生かすことなどが考えられる。また、「探究的な活動」も設定できると考える。例えば、ポスター製作で伝えたいテーマを設定し、表現方法を選択していくなどである。（図4）



【図4 習得、活用、探究の例】

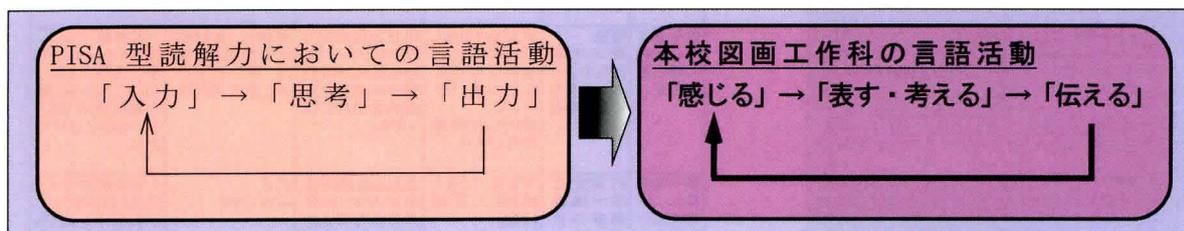
「見るポイントとイメージ」については、子どもが感覚や行為を通して見るポイントとイメージをとらえ、関係付け互いに高め合うことのできる内容を設定する。発達の段階に応じて形や色などを五感を通してとらえ、それを基にどんな感じがするかを話し合うことで自分のイメージをもつことができる。

「独立鑑賞」については、低学年では、身近な材料や作品を見たり、触ったりする活動を通して、形や色などをとらえ自分のイメージをもてる内容を配列する。中学年では、身近な美術作品などを基に、自分の見方や感じ方について考えたり、話し合ったりし、形や色などと自分のイメージを関係付けられる内容を配列する。高学年では、親しみのある美術作品や暮らしの中の作品などを基に、自分の見方や感じ方と作品に対する社会の評価とを関連付け、形や色などを根拠に自分のイメージをもてる内容を配列する。

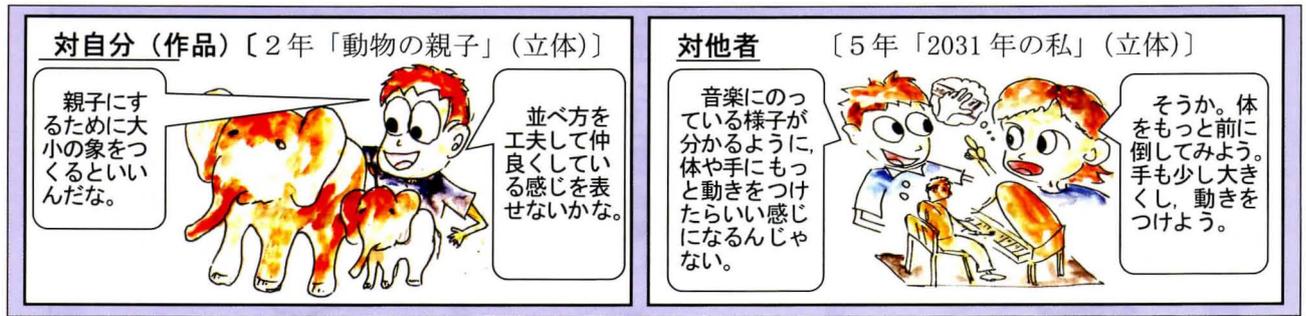
「対象物」については、子どもの興味と造形的な価値を基に、発達の段階に応じて設定する。例えば、低学年は、動物などの生き物に対して興味をもつ特性がある。また動物は、線描で表すと曲がった線や短い線など、低学年にとって身に付けさせたい造形的な要素が多く含まれている。このようなことを踏まえて「対象物」を設定していく。

「材料、用具、場所」については、本校の児童の実態や学習環境、新学習指導要領の内容を基に発達の段階を考慮して設定する。

「言語活動」については、昨年度重点的に研究し、作品について見るポイントを基に、理由付けて説明することで表現へのこだわりをはぐくむことができた。また、図画工作科は感覚的なものの見方や感じ方を大切にするので、全てが整理され言語化されるものではないととらえている。一人一人の見方や感じ方を大切にするため、はっきりと言葉にならない世界があるからである。子どもが発する「ふわふわした感じ」といった曖昧さや体を使って表現するような行為も言語活動であるととらえている。昨年度の研究をまとめたものが図5と図6である。

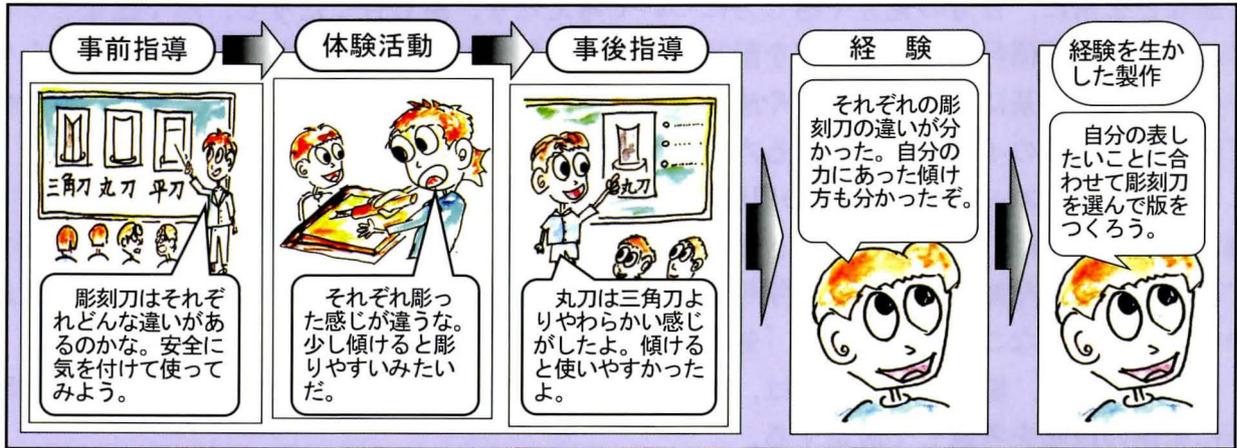


【図5 言語活動のプロセス】



【図6 対自分（作品），対他者との言語活動】

「体験活動」については、一枚の絵を「見る」行為だけでなく「この絵の感じからどんなにおいがしてきそうか」「この絵の人物は何をしているだろうか。同じポーズをとって考えみよう」などの活動が考えられる。この活動では、五感を通して作品と触れ合うことが大切である。なぜなら、子どもは視覚などに偏って作品を見ていないからである。常に子どもは体全体で作品を感じ取り、自分のイメージをつくり出している。また、体験活動は事前と事後の活動が充実することで経験となり、充実した表現へとつながる。さらに、言語活動と一体化することで、体験で得たことを学び合ったり、知識を得たりすることができる。例えば、美術館へ鑑賞の学習に行く前に、「作品の見方」や「美術館のよさ」など事前に指導する。鑑賞後に、事前指導で指導した「作品の見方」で作品を見たときにどのような感じを受けたかなどの事後指導をし、経験へとつなげる。例えば、図7のような活動も考えられる。



【図7 事前、事後指導を取り入れた体験活動例「4年 心の中の宝もの 黒と白で」（絵）】

さらに、発達の段階に応じて具体化していくため、表1のように視点を設定した。

【表1 発達の段階に応じたカリキュラム創造の視点】

視点	見るポイント(形や色など)	イメージ(心の中につく出す感など)	習得・活用・探究	独立鑑賞	対象物	言語活動	体験活動	材料、場所、用具	クロッキータイム	鑑賞の場(スペース)
低学年	大小、長短、大まかな形、直線と曲線、中心とまわりの関係、たくさんの色、きれいな色など	感覚や行動と一体になってイメージをもつ。直感的で変化に富む。形や色との関係を一体的に捉える。	培いたい資質・能力を明らかにした上で、習得・活用・探究の関係を明らかにする。	形や色を基に別なものに見立てる。	友だちと遊んだこと、動物、乗り物など	対自分との言語活動。形や色などの感じに気付く。	自己とのかかわり(適切な材料や場所を考えたり、材料を操作したりする)	土 粘土 木 紙 クレヨン パス はさみ のり 簡単な小刀類	1本の線でかく。大きく思い切ったかく。ときには詳しくかく。	授業や休業中に製作した作品を展示する。
中学年	重なり、中心とまわりのバランス、形や色から受ける感じ、混色、色の明暗、重色など	経験や話し合いなどを基に自分のイメージをもつ。形や色と関係付けて具体的に捉える。		形や色を基に作品の感じを捉える。	建物、見つけた友だちのよさ、行ったみたい世界など	対友達を重視した言語活動。様々な形や色などの違いが分かる。感じたよさを理由付けする。	自己と身の回りとかかわり(経験を基に材料や場所を考えたり、材料を操作したりする)	木切れ 板材釘 水彩絵の具 小刀 使いやすいのこぎり 金づち	1本の線でかく。大きく思い切ったかく。ときには詳しくかく。太い線・細い線を使う。速い遅いを使い分けてかく。	
高学年	奥行き、動き、材質感の違い、色の鮮やかさなど	空間を認知したり、情景を思い描いたりしてイメージをもつ。さらに、話し合いなどを基に発展させ新しいイメージをもつ。形や色との関係を、根拠を基に捉える。		形や色を基に、作者の思いを考えたり、伝統文化に親しんだりする。	日常生活の一場面、未来の自分など	対友達、社会を重視した言語活動。	自己と社会とかかわり(自分の考えを明らかにしながら身近な文化と親しむ) ※中学年の内容も含む。	針金 糸のこぎり	1本の線でかく。大きく思い切ったかく。細かいところまで詳しくかく。速い遅いを使い分けてかく。陰をつける。手首や腕を使ってきれいな直線と曲線を意識してかく。	

4 見るポイントとイメージを関係付け、互いに高め合う図画工作科カリキュラムの具体化

右枠内のような手順でカリキュラムを創造する。下の図8は独立鑑賞を基に資質・能力がどのように生かされているかを示した図である。図中の←は発想・構想の能力、←は鑑賞の能力、←は知識・理解、技能が活用されている様子を表している。

- ① 培いたい資質能力を明らかにし、各学年に独立鑑賞を設定する。
- ② 設定した独立鑑賞を基に、他の題材等を設定する。
- ③ 設定した内容を基に、言語活動と体験活動を設定する。
- ④ 子どもの姿を基に、内容と方法を評価・改善する。



【図8 独立鑑賞を基に生かされる資質・能力】

第5学年における題材配列について、資質・能力を明らかにし、見るポイントとイメージなどを基に考えた。三学期制で配列していたものと新たに二学期制で配列したものとを以下に示し、配列し直した理由を述べる。

【第5学年 年間指導計画 三学期制の場合】

学期	題材名	領域	時数
1	くねくねアート	造	3
	実体験！美術館鑑賞	鑑	3
	心に残ること(写生会)	絵	7
	夢を映して	工	7
夏季休業			
2	つくって楽しむザ・絵巻物	鑑	2
	でこぼこ広場に絵の具が走る	工	6
	2031年になったら	立	4
	夢の鏡	絵	8
冬季休業			
3	世界で一つのジグザグ〇〇	工	10 10

【第5学年 年間指導計画 二学期制の場合】

学期	題材名	領域	時数
前	くねくねアート	造	3
	実体験！美術館鑑賞	鑑	3
	港の見える風景(写生会)	絵	7
	夢を映して	工	7
夏季休業			
	夢の鏡	絵	8
秋季休業			
後	2031年になったら	立	4
	でこぼこ広場に季節を込めて	工	6
	つくって楽しむザ・絵巻物	鑑	2
	夢の鏡	絵	8
冬季休業			
	思いを込めてハートをキャッチ	工	10



【資質・能力の系統性を考慮した取組】

独立鑑賞（つくって楽しむザ・絵巻物）で社会の娯楽を目的とした絵巻物を鑑賞し、形や色から自分のイメージをもち、目的に応じて発想・構想することの大切さを経験する。その経験を生かして、次の題材では目的意識が重要なポスター製作（題材名「思いを込めてハートをキャッチ」）をする。



【二学期制を生かした取組】

題材「夢の鏡」は自分の将来像を木版画に表す題材である。夏季休業中に、自分の将来像について考える機会を設けることで、表現が充実すると考える。



【新題材の取組】

題材「でこぼこ広場に季節を込めて」は、今までテーマがはっきりしなかったため、イメージをもてない子どもがいた。そこで環境などの季節や自然などテーマを明確にして取り組むことにした。題材「思いを込めてハートをキャッチ」は、社会に伝えたいことを表す探究的な題材である。今まで探究的な題材を設定していなかったが、この題材を設定することで、色や形を基に自分と社会とのつながりを考えることができるようになると思われる。

クロッキータイム（5年生）年間計画

月	内容	関連する題材
4	割りばしペンを使って靴をかく。	心に残ること（写生会）
9	友達の顔	
1	マイマーク	思いを込めてハートをキャッチ
3	花（一人一鉢で育てた花）	



【活動の様子】

eスペース展示内容年間計画

月	踊り場展示	パネル展示
4	くねくねアート	クロッキータイムでかいた靴
6		心に残ること（写生会）
9	夏季休業中の作品	夏期休業中の作品
11		夢の鏡
1	2031年になったら	
3		思いを込めてハートをキャッチ



【「心に残ること」の展示の様子】

III 研究の実際

1 研究の立場

鑑賞領域の題材を軸にしたカリキュラム編成を実施し、鑑賞題材を実践することで、系統的な鑑賞題材の内容設定の妥当性と鑑賞以外の領域のつながりの可能性について検証していく。今回は、第3学年の鑑賞の題材「見えた！聞こえた！形と色のこんな感じ」を、表2のように実践した。（「習」は習得、「活」は活用を表す。中央の矢印は、習得から活用へのつながりを表す。）

【表2 カリキュラム創造の視点を基にした年間指導計画（第3学年）】

月	題材名 ※ ○は時数	領域	題材の内容 ～見るポイントとイメージの関連性～	資質・能力			対象物	言語活動	体験活動	用具	クッキー タイム
				鑑賞	発想構想	知技					
春季休業											
4	見えた！聞こえた！ 形と色のこんな感じ③	鑑賞	音のイメージを色や形で表して、その作品が合う場所を選び、作品を設置して鑑賞する。	●			音	音からイメージした自分なりの表現を、見るポイントを基に説明し合う。	音のイメージを表した作品が合う場所に設置する。	絵の具 カラーペン	割りばし ペンで人物をかこう(割りばし ペンの技能)
	ふしぎふしぎ 絵の具の世界③	造形 遊び	絵の具を用いて様々な技法を試み、自分のイメージに合った技法を意図的に彩色する。			● 習A		終末で、試した技法の感じについて、話し合う。	混色や重色など、様々な技法を試みる。	絵の具	
5	見つけた町の 風景⑥ (写生会)	絵	中心と周りの関係をイメージしながら、重なりのある構図を線描し、より自分のイメージに近づくように混色や重色など彩色を工夫しながら、絵に表す。			● 活A	建物	仕上げの段階で、「主題が明確か」などの視点で鑑賞話し合う。	建物や木などの紙のパーツを操作して、重なりよさに気付く。	割りばしペン 絵の具	
6	布の変身④	造形 遊び	布の材質を感じながら、イメージしたものを立体的に表現する。	● 習A		● 習B		終末で、布でつくったものを紹介する。	布で形づくり、組み合わせた方法に気付く。	はさみ 接着剤	
7	風パワー全開⑧	工作	形や色を基に自分なりの車をイメージし、風受けや車軸など、動く仕組みを工夫しながら、風で動く車を製作する。	● 活A		● 活B	車	終末で、互いの車を実際に走らせて、感想を交流する。	仕組みができた段階で試走させ、よさや課題に気付く。	はさみのり 接着剤	
夏季休業											
9	見つけた もう一つの顔②	造形 遊び	身の回りのものを形や色などから顔に見立て、自分のイメージに近づくように、目のパーツなどをとりつけて鑑賞する。	● 活A		● 活B	顔	終末で、見つけた顔を紹介し合う。	目のパーツを持って、校内の顔になりそうな場所に設置する。	はさみ カラーペン デジタルカメラ	
9	集まれ！ふしぎな うちゅう生物⑧	工作	紙コップを加工してできたふしぎな形から、「いたらしいな」と思う宇宙生物をイメージしながら、製作する。	● 習B		● 活B	不思議な 宇宙 生物	終末で、どんな宇宙生物なのか、見るポイントで理由付けしながら、紹介し合う。	紙コップを、積極的に加工し、形が変わる面白さを味わう。	はさみのり	よく見て靴をかこう(詳しく観察してかく技能)
秋季休業											
11	動物といっしょに ⑧	絵	自分が好きな動物と一緒にいるイメージに合うように、様々な紙材の特徴を生かして、紙版に表す。	● 習C		● 習C	動物と 自分	構想の段階で、どうすれば自分のイメージに近づくか、よさやアドバイスを交流し合う。	いろいろな材料の版のあとを、クイズ形式で知り、実際に刷って試す。	はさみのり 接着剤 絵の具	
12	動物とわたしの ぼうけん④	立体	自分が好きな動物と一緒に冒険をしている様子をイメージしながら、形、動き、バランスを工夫しながら、立体に表す。	● 活C		● 活C	動物と 自分	終末に、どんな様子を表現したのか紹介し、感想を交流し合う。	動物と私の組合せを何度も試みながら、イメージに合わせていく。	粘土べら 粘土ぞうきん	
冬季休業											
1	かいたりはったり ふしぎな絵⑥	絵	身の回りの材料の形や色、質感などの特徴から、絵に表したいものを思いつき、自分のイメージに合うように、絵に表す。					導入段階で、材料の感想を交流し、材料の特徴への理解を深める。	様々な材料に出合わせ、見るポイントを基に鑑賞し、それぞれのよさに気付く。	はさみのり 接着剤	マイマーク (線や形の組合せの発想)
2	3年〇組 ゆめの町⑧	工作	ペットボトルの特徴を理解し、リサイクルバサミを使って加工し、形が変わった様子からイメージを膨らませ、「あったらいいな」と思う建物をつくる。	● 活B			夢の 建物	つくった建物を並べて町に見立て、町を歩き交いながら交流し、互いの作品のよさを味わう。	ペットボトルを積極的に加工し、はさみの習熟を図り、多様な発想を引き出せるようにする。	のり 接着剤 リサイクル ばさみ	よく見て花をかこう(詳しく観察してかく技能)
春季休業											

2 実践結果と考察 第3学年「見えた！聞こえた！形と色のこ～んな感じ」

(1) 実践に当たって

中学年の子ども像とカリキュラム創造の視点を基に実践題材における授業づくりのポイントと目指す子ども像を設定して実践する。そして、見るポイントを増やしていったり、見るポイントと関係付けてイメージをさらに広げていったりする姿を見取することで、見るポイントとイメージの互いの高まり合いが表現のこだわりにつながるについて検証していく。

【中学年の子ども像】

材料や場所のよさを活用して、見るポイントをたくさん見つけたり意図的に生かしたりし、イメージと関連付けて表現する子ども

【中学年のカリキュラム創造の視点】

見るポイント	イメージ	独立鑑賞	対象物	言語活動	体験活動	用具
重なり、中心と周りのバランス、形や色から受ける感じ、色の明暗、混色、重色など	経験や話し合いなどを基に、形や色と関係付けて具体的な自分のイメージをもつ。	形や色を基に作品の感じを捉える。	・建物 ・見つけた友達のよさ ・行ってみたい世界	対友達を重視した言語活動。様々な形や色などの違いが分かる。感じたよさを理由付けする。	自己と身の回りとのかかわり（経験を基に材料や場所を考えたり材料を操作したりする）	木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなど

【実践題材】

3年 鑑賞『見えた！聞こえた！形と色のこ～んな感じ』（全3時間）

この題材は、擬音語や擬態語を色や形で表した絵本の鑑賞を基に、自分の選んだ音を表す言葉のもつ感じを形や色で表現し、実際にできた表現をその音が感じられる校内の場所を選んでそこに置き、言葉の感じを形と色からイメージして鑑賞する学習である。

【本実践題材における各視点に沿った授業づくりのポイント】

見るポイント	イメージ	独立鑑賞	対象物	言語活動	体験活動	用具
形や色から受ける感じ、組合せ、場所など	経験や話し合いなどを基に形や色と関係付けて具体的な自分のイメージをもつ。	形や色や場所の組合せから音の感じと作品を照らし合わせたり見る。	・音（言葉）	形や色と音の感じを照らし合わせて、活動のよさを理由付けしながら友達と対話する。	自分の表現を選んだ場に設置してみて鑑賞する。	色鉛筆、はさみ、セロハンテープ

【本題材で目指す子ども像】

形や色で音の感じを表現できることに気付き、見るポイントをたくさん見つけたり意図的に生かしたりして、音（文字）からのイメージと関連付けてを絵に表現したり、鑑賞したりする子ども

(2) 実践の内容

導入 参考作品（絵本の挿絵）を見て、音を【参考作品】絵本「もけらもけら」等 元永定正 表した形と色の絵であることを知る。

かーん かーん
青色だな。(色)
ジグザグだぞ。(形)
黄色いから稲妻かな。(色)

つん
赤い丸いものが付いているな。(色・形)
光った洞窟かな。(色・形)

ころ ころ ころ
緑色だから草かな。(色)
ガタゴト階段だな。(形)
丸い玉が転がっているのかな。(形)

展開 音を表す言葉を選び、形と色で表す。 **見るポイント**

事前 **イメージ**
色 色は、淡くぬるとやさしい感じが出そうだな。
形 「りんりん」はやさしそうな感じの音色だから、形は波みたいにしよう。

体験活動 表した形や色の絵が合う場所を選び、実際に設置して鑑賞する。 **何が水に落ちた音の感じだね。**

「ぼちゃん」だから、水の近くに置きたいな。
 そうか。だったら、水の上に浮かべた方が音の感じが出そうだな。

【スケッチ】 **ぴーいーい**

【非常ベルボタンに設置】


終末 音の感じと色と形の表現、場所を照らし合わせて互いの表現を鑑賞する。

事後 **豊かなイメージ** **組合せ**

●友達作品をかざって鑑賞する場所
 [音がくいのしうかき]
 ●友達作品を鑑賞してみた感想
 ぼくは、同じ「ぴーつ」をスピーカーにつけたよ。
 ぼくは、同じ「ぴーつ」をスピーカーにつけたよ。
 ぼくは、スピーカーは思いつかなかったな。ぎざぎざの形もすごい音が表現できているね。

●友達作品をかざって鑑賞する場所
 [音がくいのしうかき]
 ●友達作品を鑑賞してみた感想
 ぼくは、同じ「ぴーつ」をスピーカーにつけたよ。
 ぼくは、スピーカーは思いつかなかったな。ぎざぎざの形もすごい音が表現できているね。

形と色の組合せでいろいろな感じの違いが表せるんだね。

習得

5年 工作『でこぼこ広場に季節をこめて（壁掛けレリーフ）』（全5時間）

イメージ **豊かなイメージ**

形 **色** 3年生の鑑賞の学習で、音の感じを形と色で表しましたね。
 「りんりん」を青いガラスの穴を玉が転がるように表したよ。
 形と色で感じを表せたんだね。

活用 5年生では、形や色だけでなく、でこぼこの立体感も加えて季節の感じを表してみよう。
 夏のさわやかな感じを表現したいな。

形 **色** **組合せ** **立体感** 海のさざ波をきれいな水色と小ささを出そうだな。

(3) 考察

自分の選んだ言葉からイメージした感じを形や色で抽象的に表す経験を、これまでしていないことから、題材内容そのものが新鮮なものとなっていた。

また、つくった表現を友達と話し合いながら設置する場所を選ぶ場面では、形や色だけでなく、場所の組み合わせも考えることで見るポイントを広げたり深めたりしてイメージすることにつながっていた。

そして、設置した作品を鑑賞する場面では、同じ言葉でも自分と友達とでは、感じ方やイメージに違いがあり、形と色で表された表現にも違いがあり自分なりの表現ができることに気付くことができた。

●自分の作品をかざって鑑賞する場所
 [学校用オルガン(ぴーいっ)]
 ●自分の作品を鑑賞してみた感想
 ぴーいっは、なめらかな感じで、なめらかな感じが表せてきた。

●友達作品をかざって鑑賞する場所
 [消しこを入れている物(ぴーいっ)]
 ●友達作品を鑑賞してみた感想
 消しこは、消しこが入っている物から、ぴーいっ(その消しこ)と入っているような感じをもった。

『ぴーつ』の音から感じた「なめらかな」や「やさしい」感じを、線で表しオルガンに設置した。友達は同じ『ぴーつ』を消毒剤のノズルに付けることで、「勢いがある」感じであると捉えている。

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 表現へのこだわりをはぐくむために、見るポイントとイメージを中心としてカリキュラムを創造することで、年間指導計画やクロッキータイム年間計画などを作成することができた。
- 培いたい資質・能力を明らかにし、視点をもってカリキュラムを創造することで、表現へのこだわりをはぐくむ子どもがでてきた。
- 二学期制の導入により、長期休業中に次の題材を見越した活動を設定することができた。

2 研究の課題

- カリキュラム創造の視点である「伝統文化に関する教育の充実」についても、来年度検討していく必要がある。
- 自分のイメージが曖昧なまま表現する子どもがいるので、カリキュラムの妥当性を、PDCAのサイクルで見直し、充実を図る。

【主な参考文献】

- 文部科学省「小学校学習指導要領」
- 文部科学省「小学校学習指導要領 総則編」 (東洋館出版社 平成 20 年)
- 文部科学省「小学校学習指導要領 図画工作編」(日本文教出版 平成 20 年)
- 工藤文三「中央教育審議会答申 全文読み解き解説」(明治図書 平成 20 年)
- 梶田叡一「新しい学習指導要領の理念と課題」 (図書文化 2008 年)
- 教育出版教育研究所編「今、学校は何をすべきか」 (教育出版 2008 年)
- 深谷和子編「体験が育てる確かな学力」 (金子書房 2009 年)
- 藤江充・三澤一実「小学校学習指導要領の解説と展開 図画工作科編」
(教育出版 2008 年)
- 大泉義一「小学校教育課程講座 図画工作科」 (ぎょうせい 平成 20 年)
- 文部科学省教育課程、幼児教育課程編集「初等教育資料 (各月号)」
(東洋館出版者 2009 年)